

2024年第13回村上春樹国際シンポジウム
村上春樹文学における「ウェイ・オブ・ライフ」(way of life)
プログラム

2024/6/89

進行形式 対面式のみといたします。オンライン参加は現在のところ予定しておりません。
会場 早稲田大学早稲田キャンパス (東京都新宿区西早稲田1-6-1)
時間 2024年7月13日(土)・7月14日(日)
申込み先 <https://forms.gle/GrZMwPEPAJFwPrP9>
申込締切 2024年6月30日(日) 23:59 まで

- * シンポジウム参加費：¥1,000円(1日あたり)。懇親会会費：¥6,000円。昼食のお弁当：¥1,000円(1日あたり)。
- * シンポジウム参加費、懇親会会費、お弁当代のお支払いは、シンポジウム当日、受付にて、現金で徴収させていただきます。
- * 懇親会人数制限：50名まで。
- * 事前の申込のない場合、シンポジウムの参加は可能です。ただし、シンポジウム参加費は¥1,500円(1日あたり)といたします。また、昼食、懇親会の申込はお受け付けかねます。
- * 一般参加者、講演者、司会・コメンテーター、論文発表者は、全員事前の申込が必要です。
- * 会議予稿集は電子データにて参加者限定で公開します。ダウンロードURLはメールにて参加申込をされた方にお送りします。

* 以下は全部現地時間

1日目・2024年7月13日(土曜日)	
0930-1000	受付
1000-1020	開会式 会場 小野記念講堂 開会挨拶 曾 秋桂(淡江大学村上春樹研究センター長) 麻生 享志(早稲田大学国際文学館館長) 司会 樋口 達郎(淡江大学助理教授)
1020-1030	休憩時間
1030-1035	会場 小野記念講堂 司会 范 淑文(台湾大学兼任教授)
1035-1115	基調講演A 文学 講演者 麻生 享志(早稲田大学国際文学館館長) 文学と日常 -村上春樹、ウェイ・オブ・ライフ、そしてアメリカ-
1115-1155	講演者 中村 三春(北海道大学名誉教授) Ways of Lifemaking -中心と脱中心の村上春樹人物論-
1155-1215	総合討論
1215-1330	昼食時間
1330-1335	会場 小野記念講堂 司会 頼 錦雀(東呉大学特聘教授)
1335-1415	基調講演B 語学 講演者 金水 敏(放送大学大阪学習センター所長・大阪大学名誉教授) 日本語学から見た村上春樹作品の語体 -翻訳というway of life-
1415-1455	講演者 細川 英雄(言語文化教育研究所・ハッピアカデミア・早稲田大学名誉教授) 村上春樹の way of life とその自己表現観 -言語教育における「個の文化」の観点から-
1455-1515	総合討論
1515-1530	休憩時間
1530-1535	会場 小野記念講堂 司会 頼 振南(輔仁大学副学長)
1535-1545	講演者 鄒 波(復旦大学准教授)
1545-1555	講演者 盧 明姫(東国大学校名誉教授)
1555-1605	講演者 Samantha Lokugamage (University of Sri Jayewardenepura, Sri Lanka Senior Lecturer)
1605-1615	講演者 マッターナー・チャトゥラセンパイロート(チューロンゴン大学助教授)
1615-1625	講演者 頼 振南(輔仁大学副学長)
1625-1655	総合討論
1710-1740	特別企画 早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)参観 司会 権 慧(早稲田大学助教)・平野 真(早稲田大学国際文学館事務長)・大前 研二(早稲田大学国際文学館前事務長) 会費 無料
1800-1930	懇親会 会場 早稲田大学レストラン「森の風」早稲田大学早稲田キャンパス26号館15F 会費 ¥6,000円(1名あたり) 定員 50名まで(事前の申込が必要)

主催 淡江大学村上春樹研究センター
共催 早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)・台湾日語教育学会
後援 独立行政法人国際交流基金・東芝国際交流財団・韓国日語教育学会



2024年第13回村上春樹国際シンポジウム

村上春樹文学における「ウェイ・オブ・ライフ」(way of life)

プログラム

2024/6/9

進行形式 対面式のみいたします。オンライン参加は現在のところ予定しておりません。
 会場 早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区西早稲田1-6-1）
 時間 2024年7月13日（土）・7月14日（日）
 申込み先 <https://forms.gle/CrZMwPEPAJfWpPrP9>
 申込締切 2024年6月30日（日）23:59 まで

* 各部の時間配分
 コメンテーター：発表者2名ないし3名の紹介は全部で5分。
 論文発表：1人つき30分間（発表時間20分＋質疑応答10分）

* 以下は全部現地時間

2日目・2024年7月14日（日曜日）				
0930-1000 受付				
A会場 早稲田大学3号館7階702教室	B会場 早稲田大学3号館7階703教室	C会場 早稲田大学3号館7階709教室	D会場 早稲田大学3号館7階710教室	
1000-1005 セッションA-1 コメンテーター 王 佑心（銘傳大学准教授）	1000-1005 セッションB-1 コメンテーター 梁 福燭（元智大学准教授）	1000-1005 セッションC-1 コメンテーター 李 偉煌（靜宜大学准教授）	1000-1005 セッションD-1 コメンテーター 盧 明姬（東国大学校名誉教授）	
1005-1035 高橋 龍夫（前・専修大学教授） 春樹文学におけるウェイ・オブ・ライフとしての創作意識 —「ニューヨーク炭疽の悲劇」から「一人称単数」・「街と、その不確かな壁」へ—	1005-1035 デイル・ジョナサン（慶應義塾大学准教授） 三島由紀夫、村上春樹、そして「ウェイ・オブ・ライフ」	1005-1035 頼 錦雀（東吳大学特聘教授） 『村上T』から見た村上春樹のウェイ・オブ・ライフ	1005-1035 范 淑文（台湾大学兼任教授） 『騎士团长殺し』の「私」の「ウェイ・オブ・ライフ」 —その「隠遁」のカー—	
1035-1105 曾 秋桂（淡江大学教授） 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』における「ウェイ・オブ・ライフ」 —村上春樹文学の死生観研究の体系化を目指して—	1035-1105 王 嘉臨（淡江大学准教授） 『ノルウェイの森』における「ウェイ・オブ・ライフ」(way of life) —女性同士の絆—	1035-1105 樋口 達郎（淡江大学助理教授） 村上春樹文学における「ウェイ・オブ・ライフ」 —「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」をめぐって—	1035-1105 葉 凌（淡江大学准教授） 村上春樹「騎士团长殺し」論 —語り手「私」のウェイ・オブ・ライフ—	
1105-1115 休憩時間				
1115-1120 セッションA-2 コメンテーター 森田 典正（早稲田大学教授）	1115-1120 セッションB-2 コメンテーター 石川 隆男（台湾大学兼任助理教授）	1115-1120 セッションC-2 コメンテーター 吳 翠華（元智大学准教授）	1115-1120 セッションD-2 コメンテーター 周 玉慧（中央研究院民族学研究所研究員）	
1120-1150 楊 炳菁（朝日大学准教授） 『隔絶された時間と場所』、それに「ウェイ・オブ・ライフ」 —村上春樹の「八月の庵」を精読する—	1120-1150 周 非（都留文科大学特任准教授） 村上春樹「リーダー・ホーゼン」における「地下二階」 —「地下二階」を拠点に「ウェイ・オブ・ライフ」を考える—	1120-1150 権 慧（早稲田大学助教） 翻訳の視点からみる村上春樹文学「ウェイ・オブ・ライフ」	1120-1150 余 盛延（台北科技大学教授） Adaptation, Love, and Humanity as a Way of Life in Haruki Murakami's Dance Dance Dance	
1150-1220 佐々木 亜紀子（愛知淑徳大学ほか非常勤講師） 小川洋子が解き明かす村上春樹「貧乏な叔母さんの話」 —書くことと読むことをめぐるウェイ・オブ・ライフ—	1150-1220 王 佑心（銘傳大学准教授） フィジカルなもの、そのフィット感 —村上春樹「職業としての小説家」における「ウェイ・オブ・ライフ」をめぐって—	1150-1220 横川 彰（靜宜大学講師） 村上作品の音楽「ウェイ・オブ・ライフ」(way of life)を求めて	1150-1220 戴 毓芬（淡江大学西語系副教授） 劉 莉美（淡江大学西語系副教授） 劉 恩惠（Trinity College Dublin, The University of Dublin比較文学碩士録取生） 生存之道—世界文学上の翻譯與比較文學之關係：以村上春樹(西文版)為例	
1220-1330 昼食時間				
1330-1335 セッションA-3 コメンテーター 楊 炳菁（朝日大学准教授）	1330-1335 セッションB-3 コメンテーター 邱 若山（靜宜大学兼任教授）	1330-1335 セッションC-3 コメンテーター 高橋 龍夫（前・専修大学教授）	1330-1335 セッションD-3 コメンテーター 山内 信幸（同志社大学教授）	
1335-1405 内田 康（京都府立大学共同研究員） 『どう生きるか(ウェイ・オブ・ライフ)』という問い —村上春樹「街とその不確かな壁」/『宮崎駿「君たちはどう生きるか」』—	1335-1405 周 玉慧（中央研究院民族学研究所研究員） 欲求階層説からみれば「女のいない男たち」中の男たちのウェイ・オブ・ライフ	1335-1405 鄒 波（復旦大学准教授） 「私的言語」をめぐる戯れとスウィング —村上春樹文学における「ウェイ・オブ・ライフ」—	1335-1405 楊 瑋媚（南臺科技大学准教授） 村上春樹「アイロンのある風景」 —登場人物たちにおける「ウェイ・オブ・ライフ」—	
1405-1435 山本 智美（中央大学非常勤講師） 村上春樹文学の「ウェイ・オブ・ライフ」 —「街とその不確かな壁」に見る他者とのつながり—	1405-1435 齋藤 正志（中国文化大学教授） 村上春樹「独立器官」における男たちの(Way of Life)	1405-1435 山根 由美恵（山口大学講師） スウェーデン映画「小人と踊る」(Dansa med dva)「rgar」 におけるWay of life —「妻」の自立の物語として—	1405-1435 相沢 毅彦（早稲田大学高等学院教諭） 〈新しい作品論〉で読む「タイランド」と村上春樹の死生観 (ウェイ・オブ・ライフ) —私たちは何のために生まれているのか—	
1435-1505 林 圭介（法政大学中学高等学校教諭） 「私」の「ウェイ・オブ・ライフ」 —村上春樹「街とその不確かな壁」論—	1435-1505 安 小筠（西安交通大学博士課程） 村上春樹「木野」における「ウェイ・オブ・ライフ」 —備つけられた主体の自己回復への道—	1435-1505 杉田 佳世乃（中国科技大学・致理科技大学兼任講師） 村上春樹「七番目の男」から見る「ウェイ・オブ・ライフ」 —文章構成を中心に—	1435-1505 佐古 恵里香（流通科学大学特任専任講師） 村上春樹「カム」におけるプロトタイプとインタープロトタイプの老人観の比較 —(ウェイ・オブ・ライフ)をキーワードとして—	
1505-1515 休憩時間				
1515-1520 セッションA-4 コメンテーター 内田 康（京都府立大学共同研究員）	1515-1520 セッションB-4 コメンテーター 齋藤 正志（中国文化大学教授）	1515-1520 セッションC-4 コメンテーター 楊 瑋媚（南臺科技大学准教授）	1515-1520 セッションD-4 コメンテーター 権 慧（早稲田大学助教）	
1520-1550 吳 翠華（元智大学准教授） 林 佩青（元智大学大学院生） 別れと再出発 —村上春樹「ドライブ・マイ・カー」の原作と映画化に見るウェイ・オブ・ライフ—	1520-1550 ダリ・カタリン（広島大学博士） アダプテーションから見る「ウェイ・オブ・ライフ」 —絵本『ねむり』のイラストを中心に—	1520-1550 藤城 孝輔（岡山理科大学講師） フィリップ・マローウの教えるハードボイルド・ウェイ・オブ・ライフ —村上春樹とレイモンド・チャンドラー—	1520-1550 石川 隆男（台湾大学兼任助理教授） 〈ぼく〉のway of life —村上文学の主人公たちの葛藤—	
1550-1620 梁 福燭（元智大学准教授） 村上春樹「ドライブ・マイ・カー」上瀬川電介「ドライブ・マイ・カー」の比較研究 —文学と映画のはざま—	1550-1620 佐藤 敬子（横浜市立大学看護短期大学非常勤講師・前職） 『「心」を襲う』の「僕」のウェイ・オブ・ライフ	1550-1620 大野 建（北海道大学博士後期課程） 『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』における村上春樹のフィッツジェラルド受容 —「自立する娘」と女性の生き方—	1550-1620 吳 勤文（台湾大学専攻計画助理教授） 村上春樹における「文体」の創造 —「私」と「ぼく」の「ウェイ・オブ・ライフ」—	
1620-1650	1620-1650 Samanthika Lokugamage (University of Sri Jayewardenepura, Sri Lanka Senior Lecturer) 村上文学における Way of Life —「ねじまき鳥クロニクル」の「井戸」のやり取り—			
1650-1700 休憩時間				
1700-1710				
閉会式 会場 早稲田大学3号館7階701教室 閉会の挨拶 曾 秋桂（淡江大学村上春樹研究センター長） 次回の主題 齋藤 正志（中国文化大学教授） 司 会 樋口 達郎（淡江大学助理教授）				

主催 淡江大学村上春樹研究センター
 共催 早稲田大学国際文学館（村上春樹ライブラリー）・台湾日語教育学会
 後援 独立行政法人国際交流基金・東芝国際交流財団・韓国日語教育学会

